

● 学習目標

清潔援助の実際（全身清拭）

1. 全身の皮膚を清潔にする意義とその影響について理解する
2. 全身清拭の方法と根拠について理解する
3. 援助を実施する場合の注意事項について理解する

1) 全身清拭 P. 183

● 目的

入浴やシャワー浴と比べて呼吸・循環の及ぼす影響が少なく、入浴の負荷に耐えられない場合の清潔方法。温タオルを用いて汚れを拭きとる。

【目的】

- ・全身の清潔を保ち、爽快感を得る。
- ・皮膚の血行促進と全身マッサージ、自動他動運動の機会となる。
- ・湯温清拭による温熱刺激で皮膚温の上昇および皮膚血流が増加する。特に温熱タオル貼用と清拭の併用で皮膚血流増大効果がある。

● 実施前の評価

セルフケア能力；自力で拭く、体位を変えるなどの行為ができるか

看護師の指示に応じて関節の屈曲・進展などの運動が可能か

関節可動域の制限はあるか

適切な体位；骨整復術後の固定安静中、呼吸困難時の起座位、うつ血性心不全のファウラー位

⇒限られた体位しか取れない 仰臥位または座位になれない状況の有無

皮膚の状態；皮膚のよごれや発汗、失禁、浸出液などによる汚染の有無と程度・範囲

発疹や表皮の剥離、菲薄化、かさつきや掻痒感などの皮膚障害の有無と程度・範囲

患者の認知・知覚障害の有無と程度；温・冷感の麻痺、意識障害や認知症

⇒自ら危険を回避する能力が低下していないか

実施内容；排痰促進や腸蠕動促進など、清拭以外の効果を期待して行うのか？

⇒熱布清拭、全身清拭、部分清拭の組み合わせの判断

● 必要物品

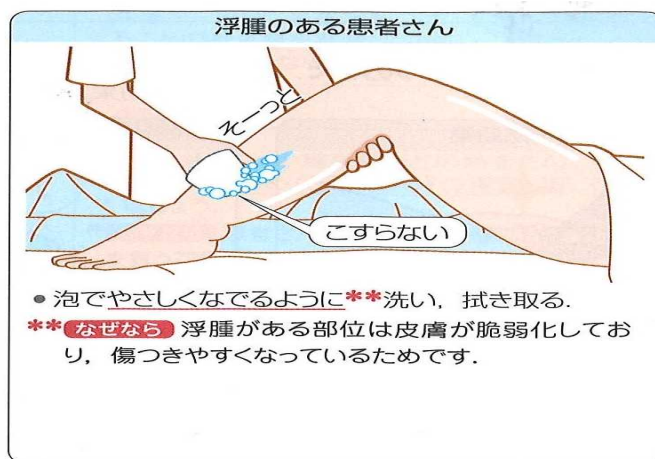
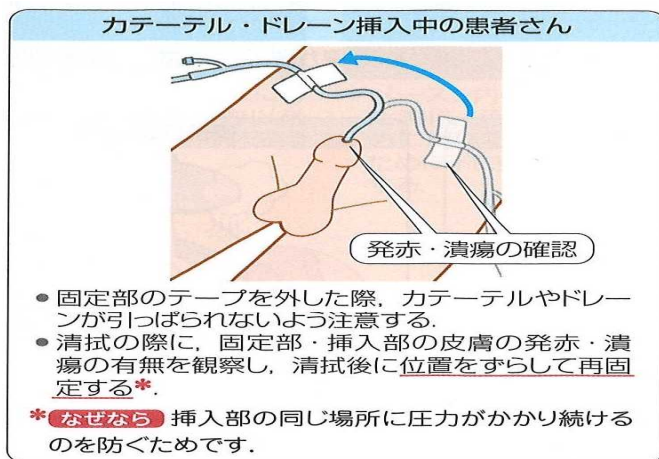
蓋つきポリバケツ（清潔な湯 60℃～70℃）、差し水用ピッチャー、汚水バケツ、ベースン、湯くみ用ピッチャー、温度計、ボディーソープ、フェイスタオル、手拭き用タオル（看護師用）、バスタオル、タオルケット、着替えの寝衣、手袋、エプロンなど

清拭を体験しよう

● 実施方法



● 様々な患者さんに対する清拭



- 熱布清拭

身体の局所に温度刺激を加え、鎮痛や消炎・止血など を目的に行われてきた技法。

- ・熱布清拭の効果

入浴に近い効果が得られる

前胸部・背部→ 排痰促進効果

腹部・腰背部→ 腸蠕動運動促進効果

